

令和2年度 中心市街地活性化つながるまちづくりプラン（盛岡市中心市街地活性化基本計画）のフォローアップに関する報告

令和3年12月
盛岡市

○計画期間：平成30年4月～令和5年3月（5年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和2年度終了時点（令和3年3月31日時点）の中心市街地の概況

- (1) 平成30年3月に策定した、国の認定を受けない市独自の「中心市街地活性化つながるまちづくりプラン」に基づき、「商店街の賑わいや魅力を楽しむ中心市街地の形成」、「暮らしや便利さを感じる中心市街地の形成」、「盛岡の歴史や文化に触れる中心市街地の形成」という3つの方針のもと、各種事業を実施した。国の認定を受けた「第2期中心市街地活性化基本計画」から継続する事業も含めた全73事業のうち、今年度実施している事業が59事業、完了した事業が9事業、未着手の事業が5事業であった。
- (2) ソフト事業は、すべて完了又は実施中となっている。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、多くの事業が中止や規模縮小となり、計画の進捗に大きく影響した。
- (3) 施設整備事業は、5事業が未着手・未実施となっているほか、進行中の一部事業で計画期間が延長されているため、関係機関と連携し、着実に実施していく必要がある。特に、重点事業に指定されている盛岡バスセンターの整備事業については、「盛岡バスセンター整備事業計画書」が策定され、令和3年1月から工事着工の予定であったが、建設事業者が脱退したことにより予定どおり着工ができなかった。今後は再募集により見直されたスケジュールに基づき進捗を管理していく必要がある。さらに、国が募集する「ウォークブル推進都市」に賛同していることから、公民連携により「居心地が良く歩きたくなる」空間づくりに取り組んだほか、令和元年度末に策定された「盛岡市立地適正化計画」とも連携しながら、社会構造の変化に対応した持続可能な中心市街地の形成を推進していく必要がある。
- (4) 令和2年度の年間観光客入込数について、インバウンドの消滅、旅行の自粛要請、各種イベントの中止や規模縮小など新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、3,944,472人（前年比89.1%、484,887人減）となった。また、業種によっては、実態がこの数値以上に深刻である可能性がある。

また、中心市街地の通行量についても新型コロナウイルス感染症の影響を受けて繁華街などで通行量が落ち込み12,690人（前年比96.9%、400人減）となった。

中心市街地の居住人口については共同住宅の建設による効果が見られたものの中心市街地全体として13,096人（前年比99.6%、54人減）となった。

新型コロナウイルス感染症の影響を受けて計画どおりに進捗していない事業が生じているが、感染症の動向を見据えて、ソフト・施設整備の各事業を着実に実施し、住みやすく賑わいのある盛岡の魅力の向上に取り組んでいくことが重要であ

る。特に、大型商業施設ななっくの閉店や岩手医科大学附属病院の移転により、中心市街地における人の回遊性の低下などの影響が出ているところであるが、民間事業者主体による複合商業施設monaka（もなか）の整備や盛岡バスセンターの整備により、新たな賑わいの創出につながることを期待されている。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ（各年度基準日：1月1日）】

（中心市街地 区域）	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度 （計画前年度）
人口	13,278	13,324	13,552	13,461	13,367
人口増減数	246	46	228	△91	△94
自然増減数	△10	△16	△21	△37	△33
社会増減数	100	80	73	△48	△28
転入者数	918	856	917	814	836

（中心市街地 区域）	平成30年度 （1年目）	令和元年度 （2年目）	令和2年度 （3年目）	令和3年度 （4年目）	令和4年度 （5年目）
人口	13,193	13,145	13,075		
人口増減数	△174	△48	△70		
自然増減数	△85	△64	△84		
社会増減数	△87	△15	△50		
転入者数	805	808	742		

※人口の基準日は当該年度内の1月1日とし、増減は基準日前日までの1年間（1/1～12/31）とする。

（例）令和2年度の場合

人口：令和3年1月1日時点、増減数：令和2年1月1日～同年12月31日の増減

2. 令和2年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

令和2年度の全体的な総括として、施設整備事業が順調に進んだ一方で、ソフト事業が新型コロナウイルス感染症の影響で思うように進まなかったわけだが、ワクチン接種率の向上や新たな生活様式の浸透などにより感染者数は減少傾向にあることから、次年度以降はソフト事業の実施主体と連携しながら以前の水準を目指して進めていただきたい。

また、プランに掲げている3つの目標指標「中心市街地の通行量」「中心市街地の居住人口」「盛岡市街の観光客入込数」がいずれも未達成となったことについても、新型コロナウイルス感染症の影響も当然あるものと思われるが、改めてそれぞれの指標に関連した事業や施策が効果的に結びついているかどうか再度確認することが必要と思われる。特に「盛岡市街の観光客入込数」については、貴市で集計した令和2年度の入込数3,944,472人（前年比10.9%減）と交通運輸、飲食・観光関連事業者などの肌感覚の間に大きな乖離が見受けられることから、事業者の実態に即した事業や経済支援施策を講じていただきたい。

新型コロナウイルス感染症の影響は根強く残るものと思われるが、新盛岡バスセンターの整備、monaka、医大の跡地活用といった当市のまちづくりや中心市街地活性化に大きな効果や影響のある取り組みが続くことから、それらと連携した新たな事業も検討しながら、引き続きプランを円滑かつ効果的に実施されることを期待する。

Ⅱ. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
商店街の賑わいや魅力を楽しむ中心市街地の形成	中心市街地の 通行量 (歩行者・自転車)	16,353人 (H30.3)	17,500人 (R4)	12,690人 (R3.3)	C	②	④
暮らしや便利さを感じる中心市街地の形成	中心市街地の 居住人口	13,367人 (H29.9)	13,500人 (R4)	13,096人 (R2.9)	C	③	③
盛岡の歴史や文化に触れる中心市街地の形成	盛岡市街の 観光客入込数 (日帰り・宿泊者数)	4,250,000人 (策定時基準値) 4,199,959人 (H29実績)	4,467,000人 (R4)	3,944,472人 (R2.12)	C	- (※)	- (※)

<基準値からの改善状況>

A：目標達成，B：基準値達成，C：基準値未達成

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり，目標達成可能であると見込まれる。
 - ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが，このままでは目標達成可能とは見込まれず，今後対策を講じる必要がある。
 - ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの，目標達成可能と見込まれ，引き続き最大限努力していく。
 - ④取組の進捗に支障が生じているなど，このままでは目標達成可能とは見込まれず，今後対策を講じる必要がある。
- (※) 盛岡市街の観光客入込数は，新型コロナウイルス感染症の影響により現時点での目標達成見通しを予測することが困難であることから，今回の見通しを「-」とした。

2. 目標達成見通しの理由

(1) 「中心市街地の通行量」については，新型コロナウイルス感染症の拡大による全国的な自粛ムードの影響を受け，繁華街の大通で通行量が大きく減少したことが影響し，前年実績13,090人を400人下回る結果となった（前年比96.9%）。

令和元年度までは取組が計画どおり順調に進捗していたが，令和2年度においては新型コロナウイルス感染症の影響により，計画どおりに進捗していない事業が生じている。

このような中，当初は計画されていなかった新たな生活様式を取り入れたイベントの実施など，落ち込んだ人の流れや店舗の売り上げ回復に向けた取組により，事業者間連携の新たな創出や，コロナ下におけるイベントスタイルの構築など将来に向けた明るい材料も生まれている。

今後について，ワクチン接種が進み，感染・重症化の予防が図られることにより，人々の自粛・警戒マインドに変化が生じると見込まれることから商店街等のイベントの開催内容の更なる工夫により，効果的な集客につなげるとともに，日常生活でも中心市街地への来街者を増加させるため，近隣地域から中心市街地までのアクセスの向上や，商店街等に所在する事業者の経営力の向上など，魅力ある中心市街地

を形成する事業を総合的に実施することで、年間を通した交流人口を増加させ、目標達成を目指していく。

- (2) 「中心市街地の居住人口」については、中央通三丁目地区の共同住宅の建設や中心市街地への交通アクセスを改善する都市計画道路の整備が順次なされ、中央通三丁目では136人の人口増となっているものの、他地区での人口減少により前年実績13,150人を54人下回る結果となった（前年比99.6%）。

今後について、民間事業者の共同住宅整備が行われていることに加えて、安全な歩行者空間の確保など、中心市街地の居住利便性の向上につながる事業を着実に実施するほか、子育て応援プラザ運営事業など住みやすいまちとしての魅力向上につながる取組を強化していくことにより目標の達成を図る。

- (3) 「盛岡市街の観光客入込数」については、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、インバウンドの消滅、旅行の自粛要請、各種イベントの中止や規模の縮小などがあったものの、国の実施した「Go To トラベル」や「盛岡の宿応援割」など観光促進施策の効果もあり、3,944,472人となり、前年実績の4,429,359人の10.9%減にとどめている。ただし、団体旅行や公共交通を利用しての県をまたいだ移動は自粛傾向が強かったことから、業種によっては実態がこの数値以上の落ち込みとなっている可能性がある。

今後について、ワクチン接種の進展により自粛ムードに変化が生じることが見込まれるものの、県をまたいだ移動の全面的な解禁ムードにいたるかは不透明であり、現時点で目標達成の見通しを予測することは難しいが、感染症対策を講じたイベントの開催やインターネット環境の整備やキャッシュレス決済等デジタル化への対応など利便性の向上により、観光客などが安心して訪れやすい、便利で魅力的なまちづくりを推進するとともに、市街地を回遊させる取組を総合的に実施することで、中心市街地全体に経済効果を波及させていく。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

新型コロナウイルス感染症の影響で環境が大きく変容し、計画どおりに進捗していない事業が生じたため。

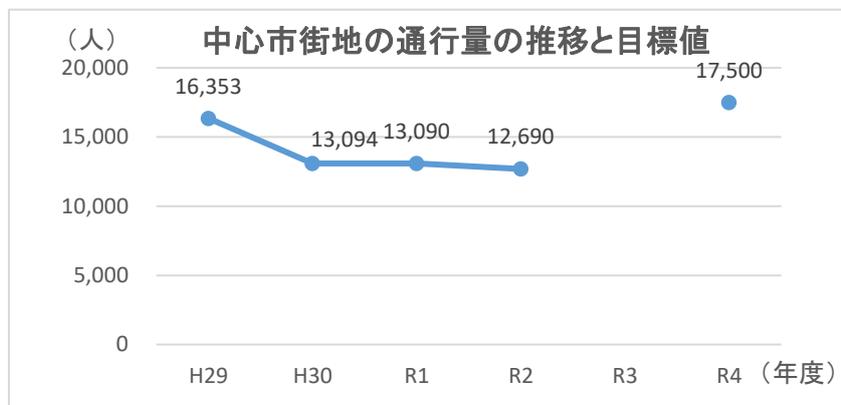
4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 基本方針1 商店街の賑わいや魅力を楽しむ中心市街地の形成

事業：a 商店街の力を活かす b 商店街の賑わいをつくる

指標：「中心市街地歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方はプランP27参照

■調査結果の推移



年度	(人)
H29	16,353 (基準年値)
H30	13,094
R1	13,090
R2	12,690
R3	
R4	17,500 (目標値)

※調査方法：歩行者・自転車通行量調査（毎年3月下旬に実施）

※調査月：令和3年3月28日（日曜日）、29日（月曜日）

※調査主体：盛岡まちづくり株式会社

※調査対象：歩行者及び自転車通行者，8地点（数値は加重平均）

■目標達成に寄与する重点事業の進捗状況及び事業効果

① 商店街等魅力強化支援事業

事業完了時期	令和4年度【実施中】
事業概要	複数の商店街等がエリアごとにテーマを設定し魅力強化のための研修会を開催する際の講師招聘経費を補助する。
事業効果及び進捗状況	令和2年度は、各商店街や商工関係団体にチラシを配布するなど事業の周知を図り、研修会開催について相談があったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、いずれの研修会も開催中止となった。

② 中小企業人材育成支援事業

事業完了時期	令和4年度【実施中】
事業概要	中小企業の役員・社員が、中小企業大学校において開催する研修を受講する場合の受講料の一部補助を行う。
事業効果及び進捗状況	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、対象の研修を受講する事業者が減少したものの、「東北大学地域イノベーションプロデューサー塾」「中小企業大学校仙台校3日間コース」の2件の補助を行い、中心市街地の事業者の経営力強化に寄与した。

③ 商店街イベント事業

事業完了時期	令和4年度【実施中】
事業概要	商店街等が主催するイベント等に対し、盛岡市商店街連合会を通じ盛岡市がその経費の一部を補助する。
事業効果及び進捗状況	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で市内商店街イベントの多くが中止となったが、盛岡市商店街連合会を通じて2団体に補助を実施し、商店街の賑わい創出や地域住民との結びつき強化の一助となった。

④ 商店街活性化支援事業

事業完了時期	令和4年度【実施中】
事業概要	①商店街をステージに、市民が主体となって企画・実施する事業②地域住民や小学校と連携し、商店街を花や木で装飾する事業③誰もが利用しやすい環境整備のため、商店街にベンチ等を設置する事業に対し、盛岡市商店街連合会を通じ盛岡市がその経費の一部を補助する。
事業効果及び進捗状況	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、市内商店街の多くが環境整備に取り組むことができなかったが、盛岡市商店街連合会を通じて、ストリートステージ1団体、フラワーコミュニケーション事業2団体に補助を行い、市民の活動発表の場を確保したほか、商店街の賑わいを創出した。

■目標達成の見通し及び今後の対策

「中心市街地の通行量」については、新型コロナウイルス感染症の拡大による全国的な自粛ムードの影響を受け、繁華街の大通で通行量が大きく減少したことが影響し、前年実績13,090人を400人下回る結果となった（前年比96.9%）。

令和元年度までは計画どおり取組が順調に進捗していたが、令和2年度においては新型コロナウイルス感染症の影響により、計画どおりに進捗していない事業が生じている。中心市街地の歩行者・自転車の通行量が減少している状況にもあることから、今後も関係団体と協力しながら、事業の効果をあげる取組について検討し、感染症対策を図りながら回遊性の向上に努める必要がある。

このような中、当初は計画されていなかった新たな生活様式を取り入れたイベントの実施など、落ち込んだ人の流れや店舗の売り上げ回復に向けた取組により、事業者間連携の新たな創出や、コロナ下におけるイベントスタイルの構築など将来に向けた明るい材料も生まれている。

今後について、ワクチン接種が進み、感染・重症化の予防が図られることにより、人々の自粛・警戒マインドに変化が生じると見込まれることから商店街等のイベントの開催内容の更なる工夫により、効果的な集客につなげるとともに、日常生活でも中心市街地への来街者を増加させるため、近隣地域から中心市街地までのアクセスの向上や、商店街等に所在する事業者の経営力の向上など、魅力ある中心市街地を形成する事業を総合的に実施することで、年間を通じた交流人口を増加させ、目標達成を目指していく。

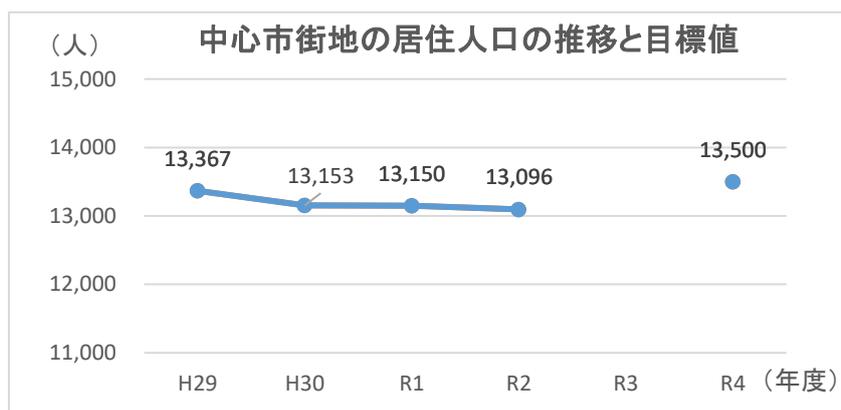
また、国が募集する「ウォーカーブル推進都市」に賛同していることから、公民連携により「居心地が良く歩きたくなる」空間づくりに取り組んでおり、歩行者中心のまちづくりを推進し、中心市街地への回遊性を高めることで、賑わいの創出につなげていく。

(2) 基本方針2 暮らしや便利さを感じる中心市街地の形成

事業：c 住みたくなる環境をつくる d 訪れやすい環境をつくる

指標：「中心市街地の居住人口」※目標設定の考え方はプランP28を参照

■調査結果の推移



年度	(人)
H29	13,367 (基準年値)
H30	13,153
R1	13,150
R2	13,096
R3	
R4	13,500 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳

※調査月：令和2年9月（各年9月末日時点）

※調査主体：盛岡市

※調査対象：中心市街地の居住人口

■目標達成に寄与する重点事業の進捗状況及び事業効果

① 中央通三丁目地区優良建築物等整備事業

事業完了時期	令和2年度【完了】
事業概要	①敷地の共同化②店舗及び共同住宅の建設を実施する。
事業効果及び進捗状況	令和2年度に完成し、事業完了となった。 このことによりまちなか居住が推進されることから、周辺商業施設での購買機会及び回遊人口の増加につながる。

② 子育て応援プラザ運営事業

事業完了時期	令和4年度【実施中】
事業概要	室内遊び場やイベントスペース、託児機能付きオフィス、カフェなどを備えた、子育て応援施設（マ・モール）を公民連携により運営する。
事業効果及び進捗状況	室内遊び場や託児機能を備えた公共エリアと、子育て中の母親を雇用したワーキングスペースを運営する民間事業エリアを設置、運営した。公共エリアについて、令和2年12月に、つどいの広場KOKKOを統合し、面積の拡充を行い、育児中の世帯も安心してまちなかを回遊できる環境を整えた。

③ 盛岡バスセンター整備事業

事業完了時期	令和4年度（予定）【実施中】
事業概要	平成28年に閉鎖した旧盛岡バスセンター所在地において、民間活力の導入を図りながら新たなバスセンターを整備する。
事業効果及び進捗状況	バスターミナル機能と賑わい機能を備えた施設を整備し、中心市街地へ訪れやすい環境を作るとともに河南地区を中心とした賑わいの創出につなげる。 令和2年度は公共用地買戻し、設計、業務委託等を行ったが、建設事業者の脱退により業者を再公募したため、建設工事の着手に遅れが生じた。

■目標達成の見通し及び今後の対策

「中心市街地の居住人口」については、中央通三丁目地区の共同住宅の建設や中心市街地への交通アクセスを改善する都市計画道路の整備が順次なされ、中央通三丁目では136人の人口増となっているものの、他地区での人口減少により前年実績13,150人を54人下回る結果となった（前年比99.6%）。

今後について、民間事業者の共同住宅整備が行われていることに加えて、安全な歩行者空間の確保など、市街の居住利便性の向上につながる事業を着実に実施するほか、子育て応援プラザ運営事業など住みやすいまちとしての魅力向上につながる取組を強化していくことにより目標の達成を図る。

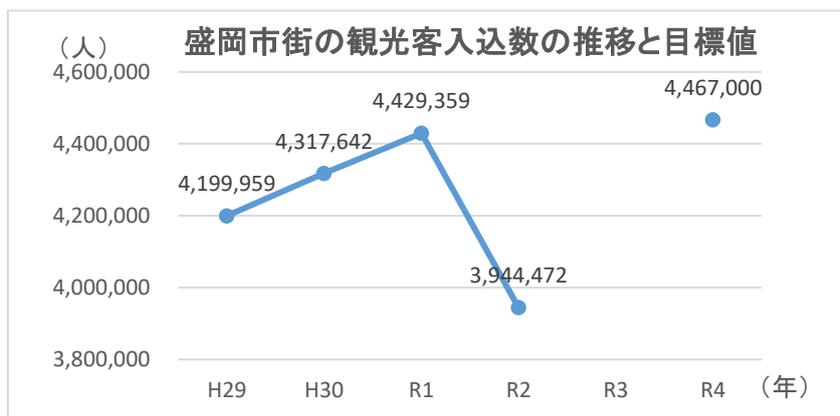
(3) 基本方針3 盛岡の歴史や文化に触れる中心市街地の形成

事業：e 城下町の魅力を発信する f 伝統と四季を発信する

指標：「盛岡市街の観光客入込数（日帰り・宿泊者数）」

※目標設定の考え方はプランP29参照

■調査結果の推移



年度	(人)
H28	4,208,272
H29	4,250,000 (基準年値) 4,199,959 (実績)
H30	4,317,642
R1	4,429,359
R2	3,944,472
R3	
R4	4,467,000 (目標値)

※調査方法：日帰り観光客入込数は近郊3インターチェンジ、バス事業者、JRの報告（任意）から、宿泊者数は市街地宿泊施設の宿泊者数報告（任意）から集計。

※調査月：令和3年3月（令和2年1月～同年12月分の数値）

※調査主体：盛岡市

※調査対象：① 日帰り観光客入込数 盛岡 IC、盛岡南 IC、滝沢 IC、岩手県交通、岩手県北バス、JR 東日本 盛岡市街の宿泊施設

② 宿泊者数

■目標達成に寄与する重点事業の進捗状況及び事業効果

① 盛岡おもてなし度UP事業

事業完了時期	令和4年度【実施中】
事業概要	市、観光団体及び事業者等が連携して、観光誘客PRや、職域研修会などの開催を支援する。 遠来からの観光客に市を挙げて「おもてなしの心」で接することにより、観光客のリピーターや口コミなどによる観光客誘致を促進し、中心市街地の魅力の発信につなげる。
事業効果及び進捗状況	構成団体が観光客に対する「おもてなし」の向上を推進するための職域別研修会の開催費用支援、盛岡駅前の歓迎装飾制作事業、外国人観光案内所のWi-Fi機器強化更新事業、観光誘客PR等の事業を実施した。 新型コロナウイルス感染症の影響により、職域別研修会は開催中止となったものの、つなぎ温泉定額タクシーの実施に伴う看板作成費助成や、東北DCに向けたのぼり旗の作成を行い、観光客PR事業を行った。

② 盛岡さんさ踊りなど伝統的な四季の祭りの開催

事業完了時期	令和4年度【実施中】
事業概要	盛岡の伝統的な祭りの開催などを通じて、盛岡の特徴的な四季の魅力を発信し、盛岡と盛岡を訪れる人とをつなぐ。
事業効果及び進捗状況	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、春の「盛岡さくらまつり」「大盛岡神輿祭」「チャグチャグ馬コ」、夏の「盛岡さんさ踊り」「ゆかたのまち盛岡」推進事業、秋の「盛岡秋まつり山車」、冬の「もりおか雪あかり」の7事業が中止、「フラワーバスケット事業」「盛岡七夕まつり」の2事業が規模縮小実施となり、計画の進捗に影響した。

③ 「ゆかたのまちもりおか」推進事業

事業完了時期	令和4年度【実施中】
事業概要	毎年夏の約1か月間、協賛店をゆかた姿で利用すると様々なサービスが受けられるキャンペーンを実施する。 ゆかたで街を回遊することを楽しめる街にすることで、華やかさや賑わいを創出するとともに、商店街を中心とした協賛店のサービスを利用するきっかけをつくり、商店街の活性化を図る。
事業効果及び進捗状況	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、事業が中止となった。

■目標達成の見通し及び今後の対策

「盛岡市街の観光客入込数」については、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、インバウンドの消滅、旅行の自粛要請、各種イベントの中止や規模の縮小などがあったものの、国の実施した「Go To トラベル」や「盛岡の宿応援割」など観光促進施策の効果もあり、3,944,472人となり、前年実績の4,429,359人の10.9%減にとどめている。ただし、団体旅行や公共交通を利用しての県をまたいだ移動は自粛傾向が強かったことから、業種によっては実態がこの数値以上の落ち込みとなっている可能性がある。

今後について、ワクチン接種の進展により自粛ムードに変化が生じることが見込まれるものの、県をまたいだ移動の全面的な解禁ムードにいたるかは不透明であり、現時点で目標達成の見通しを予測することは難しいが、感染症対策を講じたイベントの開催やインターネット環境の整備やキャッシュレス決済等デジタル化への対応など利便性の向上により、観光客などが安心して訪れやすい、便利で魅力的なまちづくりを推進するとともに、市街地を回遊させる取組を総合的に実施することで、中心市街地全体に経済効果を波及させていく。